

# 未来 Watch

みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー・・・

私たちの役割は、  
“誰も置き去りにしない”  
ニッケ教育研究所の使命。



## 編集後記

これまで、多くの方々の“ありたい姿”の実現に向け、コーチングによりかかわってきました。漠然としていた“夢”を“期日のある目標”として描き、その目標に向かってひとつひとつ行動を積み重ねていくことを一緒に進めていくプロセスです。うまくいき、思ったようにいかない事、様々な結果が行動したことにより生まれます。それを素直に受け止め、「学び」とし、また次の行動を起こしていく。このことでしか目標を達成する方法はないと感じています。「今日の自分は、今までの選択と行動の結果」という考え方もありますが、「未来のありたい自分が、今日の行動を決める」という見方もあると思います。子どもたちが夢や目標を持つことは、豊かな生活を過ごし、成長していくためにはとても大切なことです。子どもたちの夢を受け止め、温かく見守り、どんな時でも応援し勇気づけてあげることが、私たち大人が子どもたちにできることと思っています。

一般社団法人ニッケ教育研究所  
理事長 楠本 景央

## 【入会のご案内】

ニッケ教育研究所では、一般会員として活動趣旨にご賛同いただける方の入会を募集しています。詳しくは、下記アドレスより会員規程をご覧ください。入会申込書に記載してお申し込み下さい。生き抜く力《レジリエンス》にあふれた子どもたちを育むコミュニティーを、一緒につくってまいりましょう。

<https://forms.gle/pWVxdazdA6hVZEuz9>



2020 夏号 (年4回発行) No.02  
2020年7月20日 発行  
本紙掲載の記事は、複写・複製・転載を禁じます。

《発行》 一般社団法人ニッケ教育研究所  
〒541-0048 大阪市中央区瓦町3丁目3-10  
TEL: 06-6205-6665 info@nie.nikke.co.jp

## 特集

### 学校力 第1回

— 今こそ発揮されるチーム力 —

#### 教育現場からの声

ウィズ・コロナ時代に学びを止めないために  
— 学びを遊びに転化する「自学ノート」 —

#### トピックス

SDGs ～より良い世界をめざして～

持続可能な開発目標 (SDGs) とは？  
ニッケ教育研究所の考え方



# 学校力 第1回

## — 今こそ発揮される チーム力 —



《ニッケ教育研究所顧問》 勝本 孝夫

元・大阪市立榎本小学校校長（鶴見区）  
元・大阪市立姫里小学校校長（西淀川区）

### はじめに

季節は春から夏へと巡ってきました。しかし、今なお、コロナ禍で、社会全体が見えない敵に立ち向かい続けています。教育現場でも、安全・安心に配慮しながらの手さぐり状態が続いています。この危機的状況を乗り越えるため、教育現場の“学校力”が、今こそ、発揮される時であると痛感します。

私は、学校力とは、“学校目標を達成させる「チーム力」”と捉えています。これまで経験したことのない予測不可能な試練・困難な状況が次々と襲ってくる現在、以前にも増して「チーム力」を発揮して立ち向かっていく時代を迎えていると感じます。教職員一人ひとりの持ち味を生かしながら、学校が目

指す方向へ“ワンチーム”としての学校づくりが、今こそ求められているのではないのでしょうか。

より学校力を伸ばすために、私のこれまでの学校づくりの経験をもとに、チームづくりの視点を絡めながら、以下の5つのプロセスで述べさせていただきたいと思います。今の状況を切り拓く一助になればありがたいです。

もとより、私は、教育学者でもマスコミ等で世に知れた教育者でもありません。あくまでも、平凡な一教育実践者の立場での見解であることを、ご理解ください。

### <学校力構築のプロセス>

- 1 スタートは、基本理念の明確化
- 2 子ども観の確立
- 3 全ては、授業の中に
- 4 安全・安心は総合力で築く
- 5 ゴールは、社会貢献の人材群の輩出

## 1 スタートは、基本理念の明確化

どんな組織・団体でも目標があります。学校にも学校目標がなければどの方向へ進んでいけばいいかが分かりません。ただ、学校目標は、時代状況や児童の実態、地域性によって変わるものでもあります。故に、学校目標の基盤には、誰も否定しようのない“絶対的な価値”に基づいた基本理念が必要です。学校教育にとっての“絶対的な価値”、それは「子どもの人権」です。言い換えれば、“学校は子どものためにある”という哲学です。

“学校は子どものためにある”のは当然といえば当然なことですが、教育現場の日々の課題や対応に追われていると、ついそのことが忘れられがちになるのも事実です。そのためには、「子どもの人権」を的確な言葉でスローガンにして基本理念とし、確認し立ち戻る“原点”とする必要があります。

校長を務めた2校では、国連が提唱する「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の基本理念「誰も置き去りにしない」が、学校づくりの基本理念にぴったりとの思いを強くし、この言葉をそのまま使用しました。教育は“人権に始まり、人権で終わる”と言われます。いわば、教育活動のどの場面でも「子どもの人権」が貫かれていなければならないということです。金太郎飴のどこを切っても金太郎が出てくるように、教育活動のどの場面でも“子どもへの思いやり”がふれ出てくる学校を目指しました。



にしない」が、学校づくりの基本理念にぴったりとの思いを強くし、この言葉をそのまま使用しました。教育は“人権に始まり、人権で終わる”と言われます。いわば、教育活動のどの場面でも「子どもの人権」が貫かれていなければならないということです。金太郎飴のどこを切っても金太郎が出てくるように、教育活動のどの場面でも“子どもへの思いやり”がふれ出てくる学校を目指しました。

### —— チームづくりの視点 ——

## 「子どもの人権」は、教職員・保護者・地域をひとつにまとめる“中心軸”



真の「チーム力」とは、一面だけを捉えた、“機能的”な組織力のみではなく、心と心とが通い合っている“温かみのある”組織力を言うのではないのでしょうか。それには、一人ひとりの“思いや願い”を生かしながら、目指す学校目標へ“ワンチーム”として高まっていく必要があります。一人ひとりの“思いや願い”を生かすというのは、すべての教職員を「置き去りにしない」という、私の信念でもありました。

「誰も置き去りにしない」は、**教職員の心をひとつにする**的確な言葉でした。それは同時に、保護者・地域との連

携を図るための効果的な言葉でもありました。「**子どもの人権**」は、**教職員・保護者・地域をひとつにまとめる“中心軸”**でもあったのです。

現代は多様な考え方が尊重される時代ですが、基本理念「誰も置き去りにしない」を据えることで、「チーム力」は育っていくと実感できたのです。

今、社会全体も「誰も置き去りにしない」のもとSDGsの運動に参画し始めています。各企業も自社の企業方針を越えて、SDGsの理念に賛同されていることは嬉しい限りです。やはり、「誰も置き去りにしない」は、様々な考え方を乗り越え、ひとつの方向へ昇華させるとの思いを強く感じています。

時代が移り行政の施策が変わっても、「子どもの人権」は変わらない。教職員が入れ替わっても、また、今の状況の様に緊急事態で教育活動や授業形態が変わっても、「子どもの人権」を中心に据えれば、“子ども中心の学校”は発展し続けるのではないかと。子ども中心の学校”が、今後も充実・発展し続けるようにとの願いを込めて、“確固たる出発点”を築きたいと考えたのです。

2 3 4 5 については次号以降で述べさせていただきます。

## ウィズ・コロナ時代に学びを止めないために

ー 学びを遊びに転化する「自学ノート」ー



《関西学院初等部教諭》  
**森川 正樹 氏**  
(もりかわ まさき)

コロナ禍により、子どもたちを取り巻く教育環境が激変しました。しかし、そんな中でも「学び」を止めずに前進し続けるにはどうすればよいのでしょうか。一番の理想は、子どもが自ら学びつづけることです。「勉強しなさい、勉強しなさい」と言うことは簡単です。しかし「やらされている感」が付きまとうちは継続しません。環境が変わっても学び続けることのできる子どもは、「遊ぶように学ぶ」ということを知っている子どもです。

遊ぶように学ぶツール、それは「自学」です。私が学校現場で子どもたちに取り組ませているのは、自分の興味のあることをノートの見開きにまとめる、というもの。基本、取り組むテーマは自分で決めます。写真は4年生の自学です。

この子は恐竜に興味があり、友達と一緒に合作しました。歯の部分だけを拡大して説明するコーナーがあったり、丁寧に塗られた迫力あるイラストであったり、のめり込んでいる様子が紙面から伝わってきます。さらに注目すべきは右下の付箋。「評価付ける時、いいところと悪いところ両方書いてください。ぜったいGとろぞ！」と書いてあります。これは学びが主体的になっている証拠。のめり込んでいるのです（Gというのは、森川学級の最高位を表す評価基準です）。

こんな子どもたちの姿を我々大人は日々の生活の中で実現させていかなければなりません。その第一歩が「自学」なのです。

まずは保護者の方、先生方が子どもたちと一緒にやって作っていただけることです。

おススメは、高速道路のSAに置いてある観光パンフレットを切り貼りして作成する自学。図鑑を利用して迫力あるイラスト重視の自学。お料理や昆虫採集など体験をレポートする自学…。

この夏、「自学」という学びを遊びに転化できるツールを、ご家庭に、教室に取り入れられてはいかがでしょうか。見るだけでお子様の自学が激変する、多くの実物作品を掲載した自学指導の全てをまとめた本を刊行しました。ぜひご家庭でご活用ください。



掲載の作品は『小学生の究極の自学ノート図鑑』（小学館）から抜粋したもの

←小学校4年生の児童が友達と一緒に合作した「自学」作品

## SDGs より良い世界をめざして



「誰も置き去りにしない」

### 持続可能な開発目標 (SDGs) とは？

「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」は、**2030年までに達成すべき国際社会共通の目標**です。2015年9月に国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核を成すもので、持続可能でより良い世界を目指す国際目標として、2016年1月1日から取り組みがスタートしました。

それまでは、2001年に策定された「ミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）」が、国際社会共通の目標でした。8つの目標を掲げて一定の成果をあげましたが、状況が改善されずに「置き去り」にされている人々が多くいることや、先進国の取り組みが限られているなどの課題が残りました。

そこで、後継である「持続可能な開発目標（SDGs）」では、「**誰も置き去りにしない**」という理念を根底に持ち、地球上すべての人・企業・団体が取り組む普遍的なものとして、17の目標と、達成するための169のターゲットで構成されています。

＜参考・出典＞ 外務省ホームページ「持続可能な開発目標SDGsとは？」  
公益財団法人日本ユニセフ協会ホームページ「持続可能な開発目標（SDGs）」  
国際連合広報センターホームページ「SDGsとは？17の目標ごとの説明、事実と数字」



### ニッケ教育研究所の考え方



SDGsが提唱する「誰も置き去りにしない」を基本理念に、すべての子どもたちの無限の可能性を拓く教育を支援し、生き抜く力《レジリエンス》にあふれた子どもたちの育成に貢献します。

2030年をより良い世界に変え、さらにその先の未来に引き継いでいくためには、今と未来を生きる子どもたちへの教育こそが最も重要ではないでしょうか。なぜなら、社会を変え、世界を変え、あらゆる差異を乗り越えて人々が幸福になるためには、ものの視方・考え方を変化させ、人間性を向上させることが必要となってきますが、これらは「教育」から始まるからです。

ニッケ教育研究所は、「生き抜く力にあふれた子どもたちの育成」を目指しています。生き抜く力とは、心の力・学力・体力を駆使しながら、生きていく過程で遭遇する困難や試練を乗り越えていく力です。子どもたちの将来を輝かせるための基盤となるものであり、いかに育み向上させられるかは、大人たちの働きかけ方にかかっていると考えます。

元来、子どもたちには未来に向かって伸びようとする意識が備わっており、学校や社会からさまざまなことを学んでいきます。学ぶことは子どもたちにとってかけがえのない権利であり、もし阻むものがあれば、それらを取り除く必要があります。子どもたちの「学びの場」が望ましいものとなるために、私たちは学校・保護者・地域の方との交流を重ね、子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境を整え・つくることを支援していきたいと考えています。

教育の目的は、子どもたちの幸福です。子どもたちの才能を見だし、無限の可能性を拓き、世界の未来を担う人間を育てることです。「質の高い教育をみんなに、——学校・保護者・地域の方と一緒に考えて考える「チーム力」を発揮し、私たちコミュニティーに何ができるのかを研究し、発信し続けていきます。